

特集「COVID-19 パンデミック発生期の教訓と次世代への提言①」

巻 頭 言

京都府立医科大学大学院医学研究科
感染症態学

中 屋 隆 明



本誌 133 巻第 12 号では特集のタイトルを「COVID-19 パンデミック発生期の教訓と次世代への提言」としました。COVID-19 パンデミック発生から 5 年が経とうとしている今、その発生当初の混乱や対応の試行錯誤を記録として残すことには重要な意義があると考えました。しかし、振り返ってみると、身の丈にそぐわないほど大きなテーマを選んでしまったと、後になって激しく後悔することもありました。

本特集では、全てを網羅することは到底不可能であるため、パンデミック発生初期から今日に至るまでに、本学各教室が行った COVID-19 および SARS-CoV-2 に関する研究成果や論文発表を中心に取り上げ、記録としてまとめることを目的としました。その際、PubMed 検索において筆頭著者および責任著者としての発表論文数が多い教室を中心に執筆をお願いする方針

としました。しかし、それでも 1 号では収まりきらず、加藤編集委員長のご厚意により、次号にも同様の形で本特集を継続する運びとなりました。

一方で、執筆時間が極めて限られていたことから、ご辞退された教室や、お声がけできなかった教室の皆様に対し、この場を借りて深くお詫び申し上げます。

内容は、基礎研究から臨床、公衆衛生学の領域に至るまで多岐にわたっており、本学の研究および診療の実力を改めて感じることができました。この特集が、学内の COVID-19 研究を振り返る際の参考となるとともに、いずれ間違いなく訪れる「次の」新興・再興感染症アウトブレイクやパンデミックに際して、ガイドブックとして役に立つことを願っています。